

## 第 52 回日本脊椎脊髄病学会報告

獨協医科大学整形外科 種市 洋

第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会は、2023 年 4 月 13 日（木）～15 日（土）に「格致日新（かくちにっしん）」をテーマとして、札幌コンベンションセンターおよび札幌市産業振興センターにおいて通常形式の現地開催をさせていただきました。コロナ禍の動向を見守りながら慎重に 3 年間準備を続け、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「2 類相当（新型インフルエンザ等感染症）」から「5 類」に引き下げられる 2023 年 5 月 8 日直前に無事開会式を迎えることができました。[1][2]（開会式の 5 分前（7：55 頃）にターゲットが北海道付近という J アラートが響き渡るというハプニングがあり一瞬ヒヤッとしましたが・・・）

コロナ明けムード、好天、札幌市での開催という好条件の助けも借りて、コロナ禍前を越える 2,550 名の現地参加（オンデマンド配信を含むと 2,641 名）をいただきましたことは主催者として、この上もない喜びでありました。また、半世紀以上の歴史をもつ本学術集会を獨協医科大学整形外科学教室が担当させて

いただきましたこととあわせ、このように大変多くの皆様にご参加いただきましたことに心より御礼申し上げます。

[1]会長・開会式挨拶



[2]開会式風景

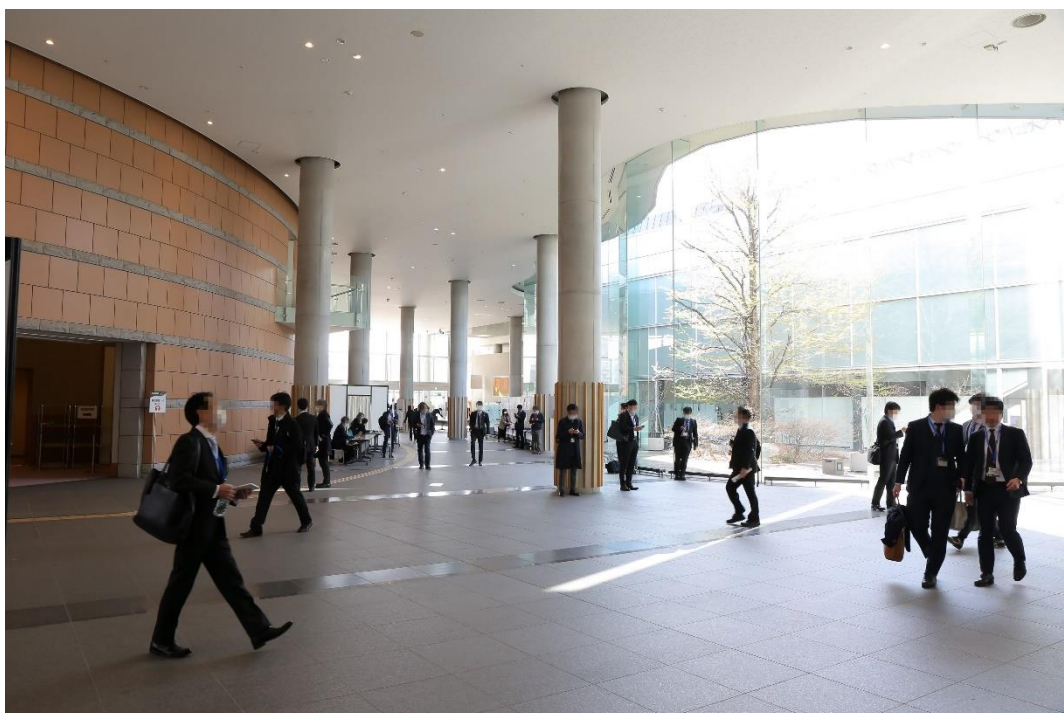


会場には日本脊椎脊髄病学会学術集会としては、初めて札幌コンベンションセンターを利用させていただきました。[3][4]当施設はコンベンション・ベニューとしては優れた点が多く魅力的なものでしたが、感染対策を考慮した最大収容人数は2313人（定員の100%）でしたので、現地参加人数によってはかなりの混雑（賑わい）が予想されました。また、札幌中心部から地下鉄で6分とアクセスは良いのですが、徒歩圏内に繁華街はないので、しっかり学術集会に集中して参加できる点もメリットといえました。

### [3]札幌コンベンションセンター



### [4]会場内風景



テーマである儒学（朱子学）の術語「格致日新」[5]の「格致」あるいは「格物致知」とは、「しっかりとした事物の観察に基づき、その本質や真理を理解し、知識を深めていく」という自然科学の基本を説く言葉で、これは外科技術の発展

にもよく当てはまることです。脊椎脊髄外科領域に課せられた使命である健康寿命延伸のためには「実効性の高い医療の提供」が求められ、そのためには私たちは病態や治療原理の正しい理解と外科技術の向上を目指し、着実に脊椎脊髄外科を発展させていかなければなりません。

[5]学会テーマ「格致日新（かくちにっしん）」

第52回 The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society  
for Spine Surgery and Related Research

日本脊椎脊髄病学会  
学術集会

格致日新  
*Grasp the essence of spine surgery and take steps forward!*

本質を見極め、脊椎脊髄外科の発展に邁進する

会長 種市 洋 獨協医科大学医学部医学科整形外科教室  
主任教授

2023年4月13日(木)～15日(土)  
札幌コンベンションセンター

本学術集会では「格致日新企画」として、病態の本質に迫る基礎研究、治療原理の根本を見据えた脊椎脊髄外科治療、質の高い外科医育成を図る新たな教育法、実効性の高い治療のためのイノベーションに関するシンポジウムやディベートを多数実施し、質の高い議論がなされました。日本脊椎脊髄病学会が継続的に展開している学会主導研究セッション、国際化推進を狙った EPA (English Presentation Award) も従来通り実施されました。一般応募演題数は 1,475 演題で、1,067 演題を採択させていただきました (採択率 72.3%)。内訳は口演 618 演題 (主題 144 演題, EPA 36 演題, 一般口演 438 演題)、ポスター 449 演題 (English 28 演題, 一般 421 演題) でした。

#### 主なプログラムの紹介

基調講演[6]には野原裕・獨協医大整形外科名誉教授に「日本における脊椎外科の黎明期」をお話しいただきました。これは昨年他界された我が恩師である故・金田清志北海道大学名誉教授の追悼講演としての側面も有した実に素晴らしいご講演でした。会長講演[7]として私が「格致日新－脊椎脊髄外科の真髓に迫る」をさせていただきました。この講演では私の座右の銘である「格致日新」や獨協学園の礎となった獨逸学協会学校・初代校長で哲学者の西周先生の「天授の五官に本く實際の學」という思想に基づき、私がこれまで歩んできた脊椎脊髄外科の

診療・研究のあり方についてお話させていただきました。

[6]野原裕先生（基調講演）



[7]会長講演



特別講演[8]

稲葉善治様

ファナック株式会社・代表取締役会長

「産業用ロボットの現状と展望～医療用ロボットへのヒント」

現在、黎明期である脊椎外科ロボティクス手術の将来を見据え、産業用ロボット

の世界トップ企業の CEO として、外科領域で広がっているマニピュレーターとしてのダ・ビンチ手術とは異なる「手術の自動化」を目指した脊椎外科領域のロボティクス手術に大きな示唆を与えていただきました。

#### 文化講演[9]

山根基世様 元・NHK アナウンス室長

「こころの声を「聴く力」

プロフェッショナルとして多くインタビューを手がけてこられたご経験のもとに、あらゆる医療行為のゲートウェイである医療面接の極意を我々に示され、特に若手脊椎脊髄外科医の教育に役立ったことと思っています。

#### 招待講演

医学的・社会的に重要なテーマを扱った以下の素晴らしいご講演をいただきました。

#### 招待講演 1

上杉 奈々先生 獨協医科大学 先端医科学統合研究施設 研究連携・支援センター 研究倫理支援室

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」と研究マネジメント

#### 招待講演 2[10]

山海 嘉之先生 筑波大学教授 システム情報系／サイバニクス研究センター／  
未来社会工学開発研究センター、CYBERDYNE 株式会社/内閣府 戦略的イノベーション  
創造プログラム (SIP)

#### 招待講演 3[11]

大磯義一郎先生 浜松医科大学法学教授

「これからの医療安全－医療補償制度創設に向けて」

#### 招待講演 4[12]

横手幸太郎先生 千葉大学医学部附属病院長・全国医学部長病院長会議会長

「コロナ禍の向こうに新しい”働き方”を考える」

#### 海外演者によるご講演

主催校選定の海外招待者のセッション「格致日新セミナー」と国際委員会選定に  
よる海外招待者のセッション「海外招請講演」を実施し、招待した19名のうち  
18名が来日され以下のご講演をいただきました。来日できなかったお一人もラ  
イブ講演を行っていただきました。



[8] 稲葉善治様 (特別講演)



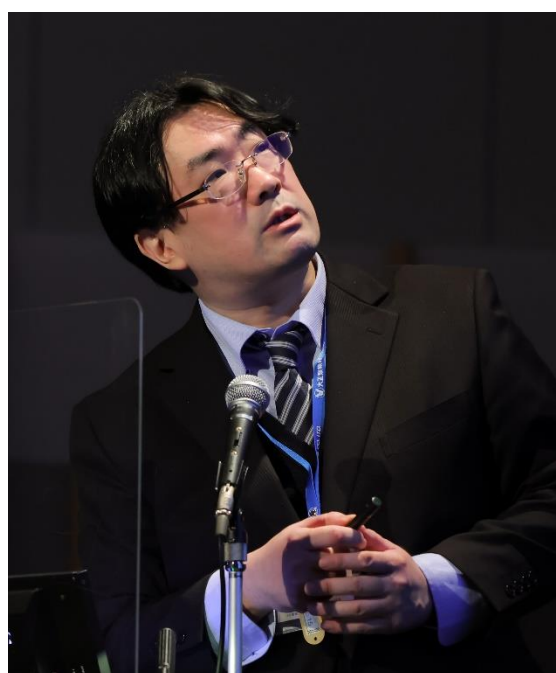
[9] 山根基世様 (文化講演)



[10] 山海嘉之先生 (招待講演 2)



[11] 大磯義一郎先生 (招待講演 3)



[12]横手幸太郎先生（招待講演 4）



格致日新セミナー1

Bingsheng Yu 先生

(Dept. of Spine Surg., Pekin Univ. Shenzhen Hosp., Shenzhen, China)

The choice of surgical approaches and techniques for the multilevel cervical myelopathy

Benjamin M. Davies 先生

(Univ. of Cambridge/Cambridge Univ. Hosp./ Myelopathy.org, Cambridge,  
UK)

Degenerative Cervical Myelopathy: Time for surgeons to look beyond the  
operating theatre

格致日新セミナー2

Juan Uribe 先生

(Dept. of Neurological Surg., Barrow Neurological Institute, Phoenix  
AZ)

The Lateral MIS Anterior Column Release Procedure (ACR)

Yann Philippe Charles 先生

(Dept. of spine surg., Univ. of Strasbourg, Strasbourg, France)  
Variation of global sagittal alignment parameters according to gender,  
pelvic incidence and age

格致日新セミナー3

Suken Shah 先生[13]

(Nemours Children's Health, Wilmington, DE, USA)  
The Growing Spine with Scoliosis: The Journey from Early Onset to  
Graduation

Jason E. Lowenstein 先生

(Morristown Medical Center/NYU Langone Health, Morristown, NJ, USA)

The role of Enabling Technology in Complex Spine Surgery; Utilization of intra-operative CT scanning and navigation to improve accuracy, safety, and speed

格致日新セミナー4

Luiz Pimenta 先生[14]

(Instituto de Patologia da Coluna, São Paulo, Sao Paulo, Brazil)

PTP (prone Transpsosas) the new lateral procedure

Ronald Lehman 先生

(Columbia Univ./New York Presbyterian, New York, NY , USA)

Robotic Spine Surgery: The Future is Now (Live)

格致日新セミナー5

Jason Pui Yin Cheung 先生

(Dept. of Orthop. and Traumatology, The Univ. of Hong Kong, Hong Kong)

Traditional Growing Rod vs. Magnetically Controlled Growing Rod for Treatment of Early Onset Scoliosis

Dezsoe Jeszenszky 先生[15]

(Schulthess Klinik Zürich, Switzerland)

Surgical results of resection and reconstruction for recurrent chordoma in cervical spine

## 海外招請講演 1

Yong Soo Choi 先生

(Kwangju Christian Hosp., Gwangju, Korea)

Association sagittal imbalance and frailty in osteoporotic vertebral fracture

Chang-Hoon Jeon 先生

(Dept. of Orthop. Surg., Ajou University Medical Center, Suwon, Korea)

Outcomes of stand-alone anterior lumbar interbody fusion (ALIF) technique

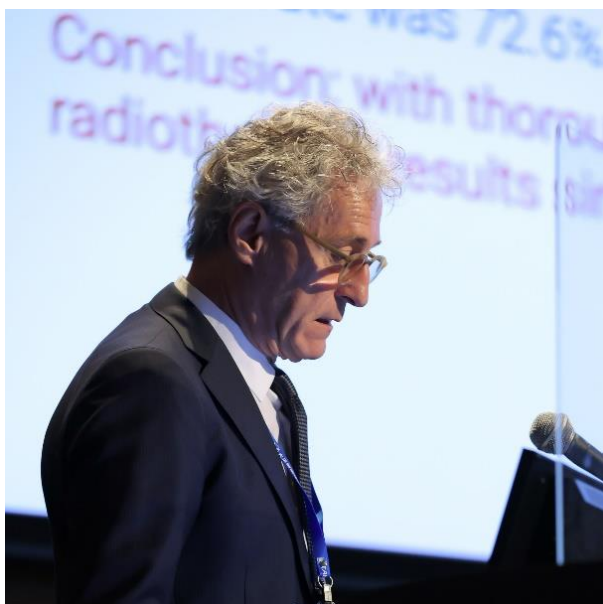
[13] Suken Shah 先生 (格致日新セミナー3)



[14] Luiz Pimenta 先生（格致日新セミナー4）



[15] Dezsoe Jeszenszky 先生（格致日新セミナー5）



## 海外招請講演 2

Cheng-Hung Lee 先生

(Taichung Veterans General Hosp., Taiwan)

Direct reduction of high-grade lumbosacral spondylolisthesis with anterior cantilever technique - surgical technique note and preliminary results

Shanmuganathan Rajasekaran 先生[16]

(Dept. of Orth., Trauma & Spine Surg., Ganga Hosp., Coimbatore, India)

Modic changes: Have we misunderstood them all along? Insights from multimodal imaging

## 海外招請講演 3

Saumyajit Basu 先生

(Dept. of Spine Surg., Kothari Medical Centre, Kolkata, India)

Surgery For Deformities In Pediatric Spinal Tuberculosis - Single Centre Review Of 51 Cases

Mun Keong Kwan 先生[17]

(Dept. of Orthop. Surg., Univ. of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia)

Safety of the Pedicle Screw Implementation in Idiopathic Scoliosis Surgery: The Myths and the Truths

Yong QIU 先生[18]

(Nanjing Drum Tower Hosp., Nanjing, China)

Type C coronal imbalance in degenerative scoliosis: how to restore its coronal balance?

海外招請講演 4

Gabriel Liu 先生

(National Univ. Hosp., Singapore)

Current trends on cervical deformity management

Vo Van Thanh 先生

(Former Head-Spinal Surg. Dept. A, Hosp. For Trauma-Orthop., HCM City,

Vietnam)

Spine Surgery Practice in Vietnam-Natural Anatomical Pathway with Prone/Lateral Position for Pedicle Screw Insertion without C-Arm check - its Application



[16]Shanmuganathan Rajasekaran 先生 (海外招請講演 2)



[17]Mun Keong Kwan 先生 (海外招請講演 3)



[18]Yong QIU 先生（海外招請講演 3）



ソーシャル・イベント

晩餐会は学術集会前日 4 月 12 日(水)に札幌グランドホテルで開催されました。内閣官房の感染対策に従い、座席間隔の確保とパーティション設置を施した上で海外招待者 18 名を含む 225 名の方にご参列いただき、実に 4 年ぶりの対面での会食となりました。[19]海外招待者を交え旧交を温める大変有意義な時間となりました。晩餐会の始まりは北大医学部卒の脳神経内科医で著名なピアニスト・上杉春雄先生[20]による、超絶技巧を要するリグティの練習曲「無秩序」を含める素晴らしい演奏と医師ならではの音楽トークでご参加の先生方には楽しんでいただけたのではないかと思います。料理は和洋折衷のコースをご提供させ

ていただきました。晩餐会では来賓の方々のご挨拶のほか、海外講師の先生のご紹介とご挨拶をいただきました。記念品は「鞆のいたがき（北海道赤平市）」の本革名刺入れをご用意し、これには「栃木レザー」のタンニンなめし皮が用いられ北海道と栃木融合の一品です。この名刺入れには千歳空港などのいたがきシップで「名入れサービス」が提供されるので、参加の皆さんのオンリーワンの名刺入れにしていただけただ方も多かったと思います。また、札幌市の本格チョコレート専門店ショコラティエマサールのショコラブラウニーと JSSR2023 オリジナル USB Type-A/C(32GB)のセットもおつけいたしました。[21]

#### [19]晩餐会風景



[20]上杉春雄先生（晩餐会コンサート）



[21]晩餐会記念品



全員懇親会は4月13日(木)に機械展示会場で19:30から行われました。YOSAKOIソーラン祭りの最多受賞チーム「平岸天神」[22]による圧巻のパフォーマンスを披露していただいた後、English Presentation Award表彰式が行われました。

[23]札幌コンベンションセンター（札幌市）の方針により会場内での飲食はできませんでしたので、お土産に赤/白ワイン（はこだてワイン）と御用邸チーズク

ッキー（チーズガーデン）をご用意し、こちらも北海道と栃木のコラボレーションといたしました。

[22] 全員懇親会風景



[23] English Presentation Award 表彰式



国際委員会ディナーは札幌出身の会長が生まれ育ったエリアの老舗料亭「エルムガーデン」で4月14日(金)に行われました。[24] 海外招聘の先生とご家族、

JSSR 執行部と国際委員、主催校メンバー等、50 名が参加しました。通常形式で開催されたディナーパーティとしては 4 年ぶりで、日本最員の先生方も多かったこともあり国際交流として大変良い機会となりました。

#### [24]国際委員会ディナー



デジタルポスター会場・企業展示会場には記念写真用のフォトスペースを設け、多くの参加者が記念撮影に利用していただきました。また、おもてなし/休憩コーナーでは栃木名物と北海道名物のスイーツを多数ご用意いたしました（【栃木】御用饅頭/レモン入り牛乳ラングドシャ/御用邸チーズクッキー/餃子味のおせんべい【北海道】マルセイバターサンド（六花亭）/月寒あんぱん/三方六（柳月）よいとまけ）が、大変な人気で連日の追加補充を致しました。

格致日新企画（シンポジウム、ディベート）

## 格致日新シンポジウム 1

「難治性脊柱変形に対する治療：治療の本質を考える」

## 格致日新シンポジウム 2

「転移性脊椎腫瘍の治療：その目指すもの」

## 格致日新シンポジウム 3

「病態の本質に迫る基礎研究」

## 格致日新シンポジウム 4

「脊椎外科のエデュケーション：On the Job Training から一步前へ」

## 格致日新ディベート 1

「骨粗鬆症性椎体骨折治療の本質に迫る BKP vs MIST」

## 格致日新ディベート 2

「椎間孔狭窄治療の本質に迫る MED vs PETLIF」

## 格致日新ディベート 3

「頸椎椎間板ヘルニア治療の本質に迫る ASF vs TD」

## 格致日新ディベート 4

「腰椎椎間板ヘルニア治療の本質に迫るヘルニコア vs FED」

## シンポジウム 1

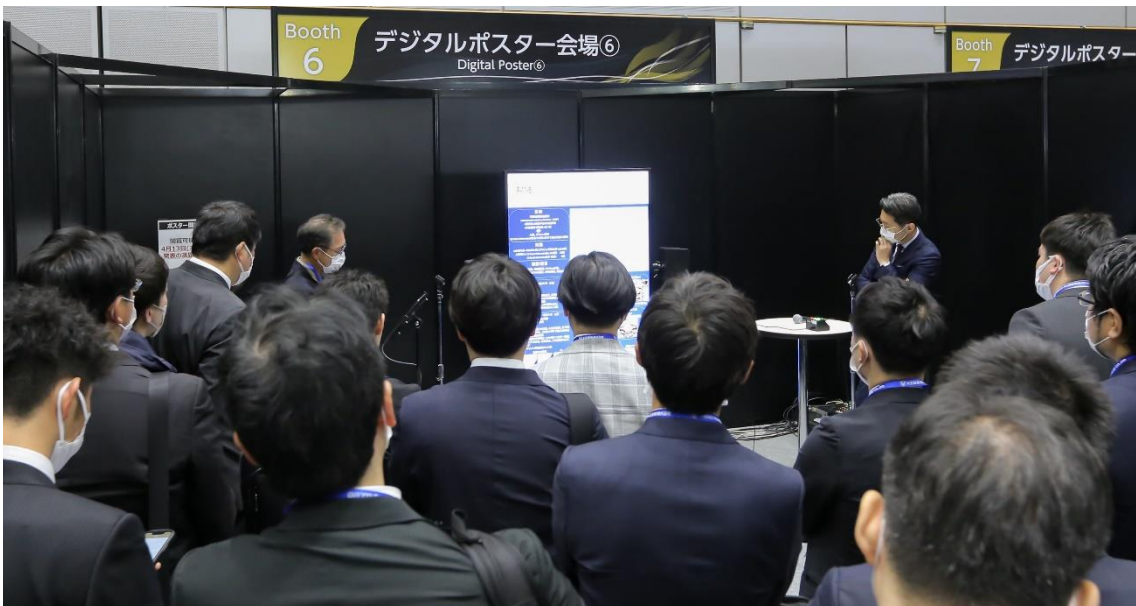
「成人脊柱変形：評価法と治療の行方を考える」

## シンポジウム 2

「脊椎脊髄病治療のイノベーション」

第52回日本脊椎脊髄病学会ではデジタルポスターを採用し、デジタルポスター・ブース内での発表となり、近隣の音声の影響が少なく発表と視聴に集中できる形となりました。

[25] デジタルポスター・発表風景





企業協賛によるセミナーは、ランチョンセミナー：26、モーニングセミナー：7、アフタヌーンセミナー：7、ハンズオンセミナー：5 が開催され、多くの先生方にご参加いただきました。

#### [26]ランチョンセミナー入場風景



今回はフードロス为了避免のため、これらのセミナーのお弁当等は学術集会側で一括管理として各会場に配布いたしましたが、参加の先生が予想を大幅に上回ったため、一部の先生にはお弁当が行き渡らない事態となりましたことをお詫び申し上げます。また、大変多くの企業様にご支援いただき、展示ブースは 56 社分を設置いただきました。

#### [27]企業展示場風景



最後になりますが、本会を成功裏に終えることができましたのも、日本脊椎脊髄病学会の役員、評議員、会員、事務局の皆様、協賛いただきました多くの企業の皆様、運営事務局・日本コンベンションサービスの皆様、そしてしっかり支えてくれた主催校・獨協医科大学整形外科学教室のみなさんのおかげです。この場をお借りして厚く御礼申し上げ、稿を閉じさせていただきます。

[28] 獨協医大整形外科スタッフ記念撮影（フォトスポットにて）

